

ふ・れあい

2016
1月・冬号

Human ♥ Communication

Vol.22

人と心に響き合う
清恵会グループ広報誌

FREE

ご自由にお持ちください



特集

見せます! 新しい清恵会病院

健康と美容の
ワンポイント!アドバイス「和食」

 社会医療法人 清恵会

特集

見せます! 新しい清恵会病院



救急車到着エリア



救急外来診察室の待合



救急医療センター



特集

見せます! 新しい清恵会病院

新病院の規模は、SRC造り、地上8階・塔屋2階建て、延べ43,286㎡。病床数276床、診療科26科目を標榜しています。フロア構成は、地下1階に厨房を設置し、地上1階には受付・会計・外来部門、検査部門、リハビリテーションセンター、救急医療センターのほか、憩いの場としてのカフェ「カフェ・ド・クリエ」を設置。2階は外来部門、検査部門、リハビリテーションセンター、堺清恵会LDセンター、コンビニエンスストア「ローソン」、3階には8室の手術室、ICU、講堂などを配置しています。

救急医療センター

救急疾患に対して円滑な救急医療が提供できるように、体制・ハード面ともリニューアルしました。

重症患者様を診療するブースと、比較的軽症の患者様を診察する外来診察室（4室）に分かれており、内科・外科・脳神経外科・整形外科・小児科の救急を受け入れています。また、救急車の進入路は、北からと西からの進入に対してそれぞれ開口し、主要道路からスムーズに受け入れられるようになりました。

検査部門

放射線部門では血管撮影装置、MRI、マンモグラフィ（乳房撮影）装置、内視鏡センターにも新機種を導入しました。新しい血管撮影装置は同時に2つの方向から撮影できるので、造影剤の量や撮影時間が短く抑えられ、患者様の負担をより軽減できます。同装置は脳と心臓を対象とし、脳梗塞や循環器疾患のカテーテル治療に威力を発揮します。

院長挨拶

2015年10月、清恵会病院は創立45周年という節目の年に、より良い医療環境を求めて、心機一転、市立堺病院跡に移転致しました。医療技術が進むにつれ従来の病院建物が手狭となり分散させた施設（一部外来部門・管理部門）を統合してもなお、ゆとりのある病院となりました。高度な検査体制の整備や、診療科の充実・向上はもちろんのこと、今後も民間の医療法人ならではの自由な発想と人への思いやりを基本に、「やさしい医療」「わかりやすい診療体制」「明るく心地よい医療の場」を目指して、堺市における救急医療をはじめとする急性期医療に貢献してまいります。



清恵会病院 院長 北岡 治子



血管撮影装置



MRI



マンモグラフィ装置

専門別センター

救急医療センター／脳卒中センター／消化器病センター／糖尿病・生活習慣病センター／
 フットケアセンター／手外科マイクロサージャリーセンター／脊椎脊髄センター／
 スポーツ関節鏡センター／リウマチ人工関節センター／骨折治療センター／リハビリテーションセンター／
 血液浄化センター／化学療法センター／内視鏡センター／堺清恵会LDセンター

診療科目

内科(循環器内科、糖尿病代謝内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓・高血圧内科、神経内科、内分泌内科、
 膠原病内科)／外科(一般消化器外科、血管外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科)／
 小児科／産婦人科／脳神経外科／整形外科／眼科／形成外科／放射線科／麻酔科／歯科口腔外科／
 泌尿器科／耳鼻いんこう科／皮膚科／メンタルヘルス科／リハビリテーション科

堺清恵会LDセンター

各センターでは専門医の統括の下、関連する多職種のスタッフが在籍し、チーム医療で患者様をトータルにサポートします。
 例えば、糖尿病・生活習慣病センターでは同疾患の患者様を対象に、専門医、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、栄養士などが協働して、内科的治療を中心に、合併する各病態に対して総合的な診療を行っています。
 脳卒中センターでは脳卒中専門集中治療室(SCU・4床)を併設、血液浄化センターでは外来透析を開始しています。

当センターでは、小児科と連携して発達障害のお子さんの診察・診断・評価・指導を行っています。言語聴覚士とオプトメトリスト(※)が在籍し、お子さんの発達や特性に合わせて一人ひとり個別に支援しています。

※LD (Learning disabilities)・・・学習障害。知的には遅れがないにも関わらず、読み・書き・計算などの特定の分野に困難が見られる状態。

※オプトメトリスト・・・視機能の検査・評価や訓練を行う専門職。視覚を効率良く使っているかを重視する。

産婦人科

外来部門は、歯科口腔外科や耳鼻いんこう科を新設するなど、総合的に配備しています。
 産婦人科では、陣痛の始まりから出産・回復までを家族とともに過ごしていただける部屋(LDR室)を2室設けました。緊急の場合には治療室として機能する設備も備えています。



女性専用病棟 総室(4人部屋)



温かいリビングのような空間のLDR室

小児科病棟

入院中のお子さんとそのご家族が少しでも快適に、退屈せずにお過ごしただけよう工夫しています。各病床にはDVDプレーヤーがあり、病棟内にはおもちゃのあるプレイルーム、付き添いのご家族が使える電子レンジや浴室も備えています。個室のソファは簡易ベッドにもなります。



小児科病棟



小児科病棟 個室



堺清恵会LDセンターとマスコットのパンダ



リハビリテーションセンター



内科および糖尿病・生活習慣病センター

ユニフォームが新しくなりました!

新ユニフォームの一部をご紹介します。
 院内で見かけるカラフルなシャツのスタッフたちは、それぞれこちらの職種です。
 また、医師は白衣と濃紺の上下の2種を基本に、手術や回診など、
 その時々で他のタイプも着用しています。



講堂(3F)



再来受付機



1Fカウンター



講堂
 3階に120名収容の講堂があり、市民公開講座をはじめ、各種研究会などを開催していきます。



また、正面玄関を入ってすぐに再来受付機があり、診察券をお持ちで再診の方はスムーズに受け付けができます。

1Fカウンター
 診察の受け付け、保険の確認、会計、入院のご案内や書類の受け付けなど、さまざまな手続きに関する総合的なカウンターです。相談コーナーとお薬相談室もありますので、お気軽にお声かけください。

2016年3月から病児保育室を開設します

「清恵会病児保育室めぐみ」



開室日時 月曜～金曜 8:30～18:30

休室日 土曜・日曜・祝日・
 年末年始(12月29日～1月3日)

診察時間や
 市民公開講座については
 ホームページへ

各診療科の診察曜日、
 専門外来の時間、
 次回の公開講座内容
 など詳細をご案内して
 います。



清恵会病院

医心

医の最前線から

第二十二回

伝心



古河 洋

清恵会病院 名誉院長(外科顧問)
近畿大学医学部 消化管外科 客員教授

1971年、大阪大学医学部卒業。大阪大学附属病院麻酔科研修。1972年、大阪府立成人病センター研修医。1973年、神戸救済会病院外科勤務。1974年、大阪府立成人病センター外科勤務。1990年2~5月、NY/Sloan Kettering Cancer Centerにて研修。1997年、大阪府立成人病センター第一外科部長。1999年、市立堺病院副院長。2000年、大阪大学臨床教授(市立堺病院副院長)。2004年、市立堺病院院長。2012年、近畿大学医学部 消化管外科特任教授。2015年、近畿大学医学部 消化管外科客員教授。同年4月から現職。

日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本癌治療学会がん治療認定医、日本臨床腫瘍学会認定医・暫定指導医、日本臨床外科学会評議員、日本癌学会、日本成人病学会ほか所属学会・研究会多数。

さらに地域の皆様に役立つ医療を目指して
外科医として院内外で活動

私は消化器外科医です。上部消化管、特に胃の外科が専門です。病院では外来診察と手術を担当しています。また、胃がん、スキルス胃がんについてのセカンドオピニオンも行っています。外科ではありませんが、手術治療の他、抗がん剤治療、放射線治療(現在は他施設に依頼)を組み合わせた「集学的治療」によって治療成績の向上を図っています。

院外では、近畿大学の客員教授として、同大学でも外来診察と手術を受け持っています。大阪消化管がん化学療法研究会(OGSG)という臨床試験グループにも長期にわたって参画しています。市販後臨床試験を行い、良い結果をガイドラインに掲載するのが目的です。新しい治療法を

確立するために、患者さんと共に臨床試験を進めています。また、8年前から「関西がんチーム医療研究会」の事務局をしています。当時は、まだ「チーム医療」が定着しておらず、これも、まったく新しい仕事への挑戦でした。

新しい清恵会病院として

移転して新しくなった清恵会病院は、さらに地域の皆様のお役に立つ医療機関を目指します。救急医療や専門医療(がん、整形外科、糖尿病など慢性代謝疾患など)をはじめ、総合医療において市立堺病院にかわる役割を果たします。特に専門医療においては、よりレベルの高い独自医療の提供に努めます。そして、地域との連携を密にして、セカンドオピニオンはもとより紹介の受け入れに万全の体制で臨みます。



柱サボテンの花

趣味は野菜づくりと鉢植え

狭い庭に、トマト・とうがらし・なす・三度豆が緑と赤色を提供しています。鉢植えでは、柱サボテンに花が咲きました。春のクジャクサボテンや夏の月下美人は毎年見ますが、柱サボテンは初めてです。身長ほどのサボテンの目の高さくらいに大輪の花。ほんのり香ります。

よりどころとなる病棟を目指して

清恵会病院は昨年10月1日に移転開院し、休止していた産婦人科が新たに再開いたしました。産婦人科は、出産のサポートはもちろん、妊娠・出産・産後の女性の体の不具合などを内科的・外科的に加療する診療科です。新しくなつて他の部署からもたくさんの看護師が加わり、より充実した体制で、みんなで協力し合つて仕事をしています。

私は助産師として女性専用病棟で働いています。助産師は妊婦さんや分

娩・産後のご婦人、新生児のケアが主な仕事ですが、女性専用病棟では産婦人科はもちろん、内科や外科の女性患者様が入院してこられるので、さまざまな経験が学びの機会になります。

幼い頃からナースの制服姿に憧れており、大人になったら看護師になりたいと思っていました。「助産師もやりがいのある仕事だよ」という母の一言で、助産師という職種に興味を持ち、目指してみようと思えました。妊娠・出産は大変なことですが、健康的なライフスタイルの延長として、リラックスした雰囲気の中で妊婦さんに安心感や楽しさを与えることのできる助産師外来の開設、マタニティーヨガスクール、産後の授乳や育児の相談室などを行いたいというのが、助産師となった今の私の夢であり目標です。ともかく、妊婦さんや育児ママさんたちのよりどころとなるような病棟を目指して、みなで頑張ります。



Nurse Face

ナース・フェイス
私の看護、私の思い



倉原 加江

清恵会病院 4B病棟 助産師

地域医療ネットワーク

清恵会病院と共に地域の医療を支え合う
医院・クリニックをご紹介します。



信頼される明るい小児科を目指して

福島小児科

堺市堺区中安井町1-3-18
☎072-222-3831



- 診療科目／小児科
- 診療時間／月曜～土曜 9:00～12:00 月・火・水・金曜 16:00～19:00
- 休診日／日曜、祝日、木曜・土曜の午後
- 開院年／2003年
- ホームページ／<http://www.sakai.zaq.ne.jp/fukushima>

小児のさまざまな疾患に対応

福島小児科を開院する2003年12月まで勤務していた市立堺病院小児科では、0157の学童集団感染、細菌性髄膜炎、交換輸血を繰り返して救命した新生児の播種性血管内凝固症などの重症感染、糖尿病、低身長、ミトコンドリア病などの内分泌、代謝疾患、まれな遺伝病など、さまざまな疾患を経験しました。

福島小児科は清恵会病院の隣の小さな医院ですが、頑張ればいろいろなことができます。小児科では感染症への対応が主になります。各種の迅速検査、血液検査などの確に診断し、外来で可能な治療をできる限り施すことを目指しています。感染症、脱水などは、可能であれば外来での点滴で治療します。元気がなくなった子どもたちとご家族の笑顔に励まされて頑張っています。

低身長の診断と治療、アレルギー疾患の管理なども可能です。ワクチン接種による病気の予防にも力を入れています。ワクチンも検査も治療法も進歩しています。新しい知識を学んで最善の医療ができるように日々勉強しています。スタッフ一同、力を合わせて、地域の皆様に信頼していただける明るい小児科を目指しています。

さらに高度な医療施設へ――

あらまき整形外科クリニック

堺市北区長曾根町3084-21
☎072-257-9919



▲院長の荒巻忠道先生(前列中央)とスタッフの皆様

- 診療科目／整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科
- 診療時間／8:45～12:00、16:15～19:00(木曜・土曜は午前のみ)
- 休診日／日曜、祝日、木曜・土曜の午後
- 開院年／1999年
- ホームページ／<http://www.aramaki-seikei.com>

新たに移転開院

2016年1月8日、中百舌鳥町から移転し、新たに開院いたしました。今年で18年目になります。

新クリニックは、リハビリテーション施設・設備ともに拡充しました。スポーツ整形外科、股関節・膝関節・脊椎の整形外科手術後リハビリの充実を目指していきます。

また、画像診断では、最新のMRIを導入し、さらに透視付きレントゲン装置も最新化しました。より迅速で正確な診断に努力してまいります。

患者様からのご要望が強かった待ち時間対策は、当日予約も可能な体制としましたので、ホームページから閲覧いただければ幸いです。

今後も捻挫や骨折などの急性疾患から、関節リウマチや加齢に伴う変形性関節症などの慢性的な疾患まで、一人ひとりの生活環境やお仕事などに配慮し、皆様が人生を楽しく過ごせますよう、お手伝いさせていただきます。

院長として

院長の私は、これまで整形外科専門医として多くの患者様の疾病に関わってきました。その経験を踏まえ、一人でも多くの患者様に適切な医療提供をと心掛けています。必要と思われる治療の説明をしっかりと

りと伝えた上で、医療スタッフとともに診療させていただきます。専門的な治療を、優しさともに行える医療機関を目標としています。地域医療は、多くの医療機関のコミュニケーションがなければ達成できません。整形外科とリハビリテーションで良質な医療を提供し、皆様の健康をサポートします。

清恵会病院とのかかわり

清恵会病院には、これまで骨折などの急性期医療から脊椎、手関節ほか、多くの慢性期疾患において大変お世話になりました。清恵会病院は今回の移転により、さらに肩関節外科、関節リウマチの充実がなされましたので、今後ともご指導いただければと考えております。どうぞ、よろしく願いたします。



▲2016年1月に移転開院の新しいクリニック(イメージ)

清恵会とのかかわり



すぐ隣の清恵会病院は、小児科をはじめ各診療科が充実していて、あらゆる疾患に対応していただけます。こちらでは対応できない小児の発達障害などの診療も可能です。さらに、時間外の救急医療体制にも万全を期しておりますので、当院も安心して診察できます。今後も連携を図りながら、地域医療に貢献したいと考えています。



▲院長の福島久雄先生。壁には診てもらった子どもたちから先生へのお礼がたくさん



放射線技師科2部2年 土井美幸

学生



放射線技師を目指して、定時制の夜間へ

私が学んでいる放射線技師科2部は定時制で、働きながら免許を取ることが出来ます。私も朝から夕方まで仕事をし、夜間に学院へ通っています。職場には卒業生もいて、通学にも理解があり、とても両立しやすい環境です。

大学を卒業した後、この清恵会第二医療専門学院に入学しました。大学では医療経営学科に所属し、病院におけるマネージメントを勉強していた私が放射線技師を目指そうと思ったのは、放射線の奥深さを知って、検査でいち早く病気を発見したいと思ったから。夜間は4年間で、学ぶことはたくさんあります。電車などの移動時間も勉強できるよう、ノートやプリントを写真に撮って携帯電話で見られるようにしています。私は年の離れたクラスメイトが多いですが、同じ目標を持つ仲間なので年齢は関係ありません。みんな、とても仲良しです。また、先生方とも世間話をするくらい仲良くしていただいています。

学生たちの未来 先生たちの今

清恵会グループには、二つの医療専門学院があります。夢と希望と決意を胸に、明日の医療界を目指して毎日頑張っている学生たちがたくさんいます。その学生たちをサポートする先生たちもまた、情熱と愛情と使命感に溢れています。そんな学生と先生の学院生活をご紹介します。



先生 放射線技師科2部 専任教員 西尾洋祐

一人ひとりの個性を育てるために

臨床の現場で8年間を過ごし、放射線技師としての仕事にも慣れたころ、母校である清恵会第二医療専門学院が教員の募集をしていると知りました。医療の世界で得た知識と経験を、少しでも後輩の教育に役立てたいと思い、入職しました。

当学院の放射線技師科は全生徒で約200人が在籍しており、個性もさまざまです。そのすべての生徒を立派な医療人に育てるには、個人の力だけでは限界があります。そのため、他の教員はもちろん、実習先の先生方とも交流を深め、生徒に対する意識を統一するよう努めています。個人的には、学校生活やプライベートな事なども気兼ねなく相談してもらえるような教員になりたいですね。放射線技師として働き始めた卒業生が学院に挨拶に来てくれたとき、この仕事を選んで良かったなと思いました。国家試験に合格するためには、人一倍の努力が必要です。一人ひとりが立派な医療人として社会に羽ばたけるよう、これからも私たちは全力でバックアップしていきます。

医療相談から退院支援まで、患者様とご家族をトータルサポート

地域医療連携部

今回は、清恵会三宝病院の地域医療連携部の活動をご紹介します。

同部は、平成27年4月、地域連携室と医療福祉相談室を統合する形で発足しました。藤田院長代理を部長に、現場職員5名で活動しています。

入院お申し込みや通院リハビリなどのお問い合わせの窓口対応から、入院中や通院中の医療相談と退院支援まで、トータルサポートを行う部門として、同時に患者様とご家族の傍らで福祉の力を発揮できる部門として、努力を惜しまず前進していきたいと考えています。

医療相談と退院支援

入院中の医療相談と退院支援を中心に活動している医療ソーシャルワーカーは3名です。病院という医療現場で唯一、福祉分野を担う専門家です。患者様とご家族に寄り添う支援関係づくりを目指し、入院前のご家族面談・ご本人面談、病院施設のご案内などを通じて「出逢い」を大切に

にしています。また、種々のカンファレンスに参加し、主治医・看護師・リハビリスタッフとの院内連携、ケアマネージャー・訪問看護師・介護施設職員等との院外連携も積極的に実践しています。

渉外活動

血液維持透析やリハビリテーションをはじめとする三宝病院の特長をご案内する渉外担当者が在籍しています。大阪府内の急

急性期病院から 当院への転院まで

- 急性期病院の退院支援部門からの「電話での転院お問い合わせ」へ対応
- 診療情報提供書をフアクシミリで受け取り
- 入院判定協議会での検討(月々土)
- ご家族様・ご本人様との面談(ご希望時、施設のご案内)
- 転院受け入れ日時を急性期病院へ連絡
- 三宝病院へ入院

性期病院を中心に、兵庫県・奈良県・和歌山県など、近畿圏内の急性期病院へも広く訪問し、病院の特長をご説明しています。その結果ひと月に約60件、転院のご紹介をいただいています。

当院に入院後から 退院まで

- 退院支援介入開始
ご家族様・ご本人様との面談を通して退院を目指すことの確認(退院支援のスタート)
- 院内ケース会議の中で入院計画・看護計画・リハビリ計画を確認
- 医師からの病状説明
ご家族様・ご本人様との情報共有
- 社会資源(施設・病院・介護保険・ケアマネージャー等)の情報収集
ご家族様・ご本人様への情報提供と自己決定に向けての援助
- 施設や病院等関係機関への依頼
診療情報提供書の送付など
- 関係機関スタッフとご家族様・ご本人様との面談の調整
- 三宝病院から退院



清恵会病院 薬剤科
 薬剤師 河野 敦志(左)
 薬剤師 小杉 渚(右)

vol.9 調剤過誤を防ぐ新システム

薬剤科では日々、薬の取りそろえから、散剤(粉薬)、水剤(水薬)、軟膏など、さまざまな形の薬を調剤しています。

患者様の大切な薬にミスは許されません。そこで、ミスを防止すると同時に薬剤師がこれまで以上に病棟で活動し、患者様と接する時間を増やすことができるよう、新システムを導入しました。今回は、その内容をご紹介します。

1 散剤監査システム

小児科の患者様や錠剤を飲むのが困難な患者様のために、散剤を秤量(ひょうりょう)^{※1}、分包^{※2}しています。このシステムにより処方された薬剤、秤量値から正確に調剤でき、監査者にもわかるようになっていきます。

※1：量をはかること
 ※2：一包みずつに分けて包むこと



▲薬品名と秤量値をモニターで確認し、調剤しています。



▲分包紙に印字する患者様の情報を読み込ませています。



▲処方監査システム
 病院の移転に伴って新しく導入されたシステムです。

2 錠剤分包機

半錠や1包化を必要とされる患者様のために、印字内容を指示し、分包されている薬剤がわかるように調剤しています。



3 水剤監査システム



散剤と同様に薬剤、秤量値を正確に取り、薬剤の取り間違いや秤量ミスを防ぎます。



◀水面に向かって赤外線センサーが出ています。センサーにより、秤量値を正確に取り取ります。

「いつまでも健康でいきいきと過ごしたい」。これは、すべての人の願いです。2013年12月「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、近年、「和食」が国内外で注目を集めています。和食は、一汁三菜が基本のスタイルで栄養バランスがとりやすく、また、「うまみ」を上手に使うことで、動物性油脂の少ない食事となり、日本人の長寿や肥満防止にも役立っています。

「まごわやさしい(マゴワヤサシイ)」※という言葉をご存じでしょうか。

日本人にとって、昔からなじみのある食材の頭文字を取った語呂合わせで、毎日の食事に意識して取り入れたい食材を表しています。

これらには、日頃から不足しがちなビタミン、ミネラル、食物繊維など、体調を整え、生活習慣病を予防する栄養素が豊富に含まれているため、1日1回摂るよう心掛けましょう。**野菜は1日350g(目安として野菜料理5皿分)を3食に分けて摂りましょう。**

ま (まめ)	ご (ごま)	わ (わかめ)	や (やさしい)	さ (さかな)	し (しいたけ)	い (いも)
大豆、小豆、納豆、豆腐など	ごま、ピーナッツなど	わかめ、ひじき、のりなど	緑黄色野菜、淡色野菜	魚介類	きのこ類	じゃがいも、こんにゃくなど

※「マゴワヤサシイ」は、吉村裕之氏(元金沢大学名誉教授)が提唱し、山田豊文氏(杏林予防医学研究所所長)が栄養指導に関して商標登録されています。

ここで簡単メニューを2つ紹介します。(三宝病院で患者様に提供し喜ばれています)

料理 レシピ1 ほっこりやさしい味です 南瓜のいとこ煮

材料(4人分)

- 南瓜 1/4カット
- ゆで小豆 100g(乾燥、水煮どちらでも可 ※甘いタイプなら砂糖は使用せず)
- だし汁 300cc
- 砂糖 10g(大さじ1杯)
- 濃口醤油 20cc(小さじ4杯)



作り方

1. 南瓜は種とわたを取り、大きめの一口大に切り、皮をとところどころむく。
2. 鍋にだし汁、砂糖、濃口醤油、南瓜を入れ蓋をし15分間程度煮る。
3. 南瓜が柔らかくなったら、ゆで小豆を加え5～6分煮詰める。

料理 レシピ2 まったり感が苦手な方も一度お試しあれ 豆乳入りごま豆腐

材料(4人分)

- ねりごま 40g(白黒はお好みで)
- 豆乳 150cc
- 水 100cc
- 砂糖 3g(小さじ1杯)
- 濃口醤油 5cc(小さじ1杯)
- 粉ゼラチン 5g



作り方 ※市販の卵豆腐の容器などを再利用すれば便利

1. 鍋で水を沸騰させ、粉ゼラチンを振り入れよく混ぜて溶かす。
2. 別鍋に残りの材料を全て入れ、かき混ぜながらひと煮立ちさせる。
3. 2に1を加えよく混ぜ合わせたら、容器に移して冷蔵庫で冷やし固める。
4. お好みで、わさびや生姜、醤油を添える。

健康と美容のワンポイント! アドバイス

～その10～

「和食」

清恵会三宝病院 栄養科
 科長 村知 工リ

清恵会グループのご紹介

清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0064 堺市堺区南安井町1丁目1番1号

清恵会本部

〒590-0064 堺市堺区南安井町1丁目1番1号

いずれも ☎ **072-223-8199**(代)

清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・
訪問リハビリテーション

〒590-0065 堺市堺区永代町2丁目3番9号

☎ **072-232-6074**

清恵会向陵クリニック

人工透析外来

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁目2番11号

☎ **072-257-3131**

清恵会グループの
WEBサイトもご覧ください



<http://seikeikai.or.jp/>

清恵会

検索

清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁目4番地の1

☎ **072-226-8131**(代)

さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁目4番地の1

きらきら訪問リハ三宝

訪問リハビリテーション

清恵会三宝病院 介護事業部

☎ **072-225-0066**

清恵会医療専門学院

看護師・准看護師養成校

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁目83番地

☎ **072-259-3901**

清恵会第二医療専門学院

理学療法士・
診療放射線技師養成校

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁目5番9号

☎ **072-222-6226**

清恵会病院への無料送迎バスを運行中

JR・南海高野線 三国ヶ丘駅 ⇄ 清恵会病院
南海高野線 堺東駅 ⇄ 清恵会病院

上記の路線で無料送迎バスを運行しています。
時刻表はホームページをご覧ください。

また、南海バスでもお越しいただけます。バス停「栄泰橋」下車すぐです。

